

【ふれあいマンガ 思いやりいっぱい】



(全 11 巻)

【発刊によせて】

21 世紀の社会を担う子ども達の心の豊かさを育くむには、芸術、文化等を単に鑑賞するだけでなく自分から表現する個性と創造性を伸ばし、人と人、心と心のふれあいを大切にすることが必要です。そこで若い人もお年寄りも、障害を持った人も持たない人も、みんながお互いに、ひと声かけて手を差しのべあい、人とふれあい、そしてあたたかい人の心に感激した思い出、そのような情景を子どもの目をとおしてまんがにしてもらいました。

審査のポイントは、テーマとストーリーが“福祉”や“思いやり”を扱っていること、そしてコマ送りや構成にムリ、ムダがなく個性的であることに重点が置かれました。

応募作品の中には絵画力、描写力ではプロの世界でも通用しそうな作品もありましたが、募集テーマに合わなかったために選考の対象外となった作品もあり非常に残念に思いました。応募学校数 119 校応募作品数 781 点と、予想以上に沢山の方から、素晴らしい作品を寄せていただきました。

どの作品も甲乙つけがたく、選考に苦労しましたが、11 月 9 日(日)に表彰式を行い、大賞 10 点、佳作 14 点が表彰されました。

1986 年 11 月
(あとがきより)

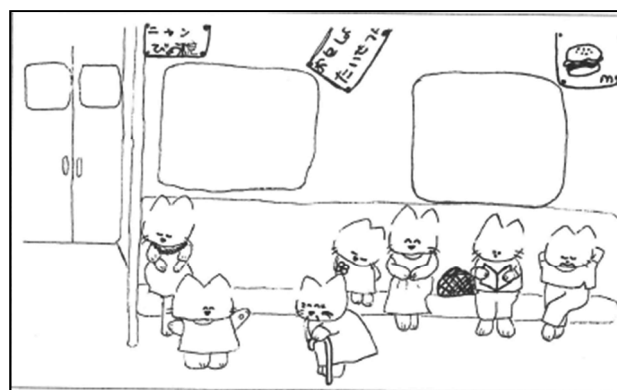
審査員（順不同、敬称略）

赤塚 不二夫	まんが 作家
藤巻 貞夫	神奈川県教育委員会指導主事
望月 正道	神奈川県社会福祉協議会長
金森 トシエ	神奈川県立婦人総合センター館長

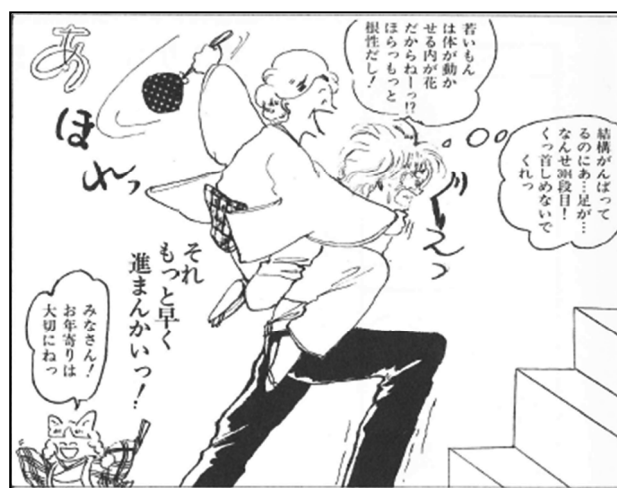
【大賞受賞作品】



〈評〉お年寄へのやさしさをうまく工夫している（藤巻）



〈評〉猫がかわいく、構図も良い（赤塚）



〈評〉いたずらっぽいおばあちゃんのアクションが
いきいきしている（赤塚）